

私のミルフォードトランピング

ミルフォードトラックへ向かう

ニュージーランドは前述の通り極めて特異な生態系の国でありながら近年その生態系を攪乱する事態が次々と起こっているため、ミルフォードトラックでも自然へのインパクトを最低限に抑える工夫がDOC: Department of Conservation (環境保護省) によってされている。

歩くことが出来るのは10月下旬から翌年4月上旬まで予約制、1日の入場可能人数は個人ウォーク Independent Walk, ガイド付きウォーク Guided Walk, 何れも45名以内で一方向、決められた行程(3泊4日)で決められた小屋に泊まって歩かねばならない。年齢は10歳以上70歳まで、私はギリギリセーフだった。



ガステーションの建物



ガステーション内部



虫よけクリーム



ワカティプ湖



ワカティプ湖畔すずかけの木



花を飾る湖畔の家



クイーンズタウン街角

ニュージーランドではトレイルのことをトラックといいトレッキングのことをトランピングというが、この Tramp はゆっくりと歩くことを楽しむニュアンスの言葉で、グレートウォークと呼ばれるトラックが北島に3か所、南島に6か所あり、その中でも最も有名なのがこのミルフォードトラックなのだ。ステーションへはバスで5分、明日からのグループ No.46 の一同44名が揃って説明を聞く。有難いことに我等日本人には日本語で書かれた行程、注意事項、食事の資料が配られた。説明終了後、明日から使用する自分用のシートを受け取る、希望すればリュックやレインウェアも借りられるが其の必要はない。隣の部屋で色々なミルフォードグッズを売っているので記念にTシャツとキャップ、それに必要品の防虫クリーム(サンドフライという小さなブヨが多い)を買った。これで明日からの準備万端整ったことになる。

一旦ホテルに引き上げて夕食を済ませたが、街を探検したいという数人と丁度来たバスに乗って湖畔の商店街 TheMall に出かける、店は夜9時迄が多く閉まっている店が多かったが石畳の街並みは美しい。クイーンズタウンはかつての宗主国イギリスのビクトリア女王に相応しいと名付けら

れた美しい街で、ニュージーランド第 3 位の面積と最長の長さを持つ S 字の氷河湖ワカティブ湖（マオリ語：巨人の横たわる谷間水）畔にある。この土地の発見者は英国ウェールズの人ウィリアムギルバートリー William Gilbert Rees で 1860 年 33 歳の時、ダニーデンから苦勞して羊を移動し牧場を開いた、その後 1862 年に樵のジャック・テワがアロー川でゴールドナゲット（結晶自然金）を発見、更にその後ショットオーバー川でも金が出て 2 つの金脈が判明してからゴールドラッシュが始まり、一時は 7000 人が殺到したのでリーは抗夫の為の食事と宿泊所を提供して信頼を得た。然し 1900 年初、金脈が尽きると 190 人程に迄落ち込んでしまったが、後半から観光地として脚光を浴び始め現在に至るといふ歴史を持つ街でもある。尚、“クイーンズタウン”の名付け親は金坑夫に多かったアイルランド人達で、ワカティブ湖南端にはキングストン(キングスタウン)もある。明日があるからモールの歩きもほどほどにしたが、帰りは上り坂の歩きでこれが結構きつかった。

12 月 12 日（木）6：45am 起床、スーツケースをホテルに預けて朝食前に湖畔の散歩、街角にあった巨木にジャイアントセコイアの表示、家々は庭を綺麗に整備し山茶花などの花が美しかった。朝食を済ませ、ミルフォードサウンド送りのバッグとリュックを持って 8:45am バス発、5 分でステーションへ着く、専用バス出発まで少し時間があつたので街をぶらついたら何とハーミティジのタカコさん達 3 人の日本女性とばったり、ニュージーランドは狭いとこの奇遇に驚いた。



ウィリアムギルバートリー



花とワカティブ湖



ミルフォードトラック専用バス

丁度 10 時、ステーションの裏から赤シャツのガイド（Dave, Grace, Ross, Mike の 4 名）と No.46 一行 44 名が専用バスでティアナウへ向かう。ティアナウは南島最大の湖ティアナウ湖南端の街でフィヨルドランド国立公園の中心地、マオリ語では雨のように水がほとぼしる洞窟を意味し、対岸にあるこの鍾乳洞は土ボタルが見られることで観光の対象になっている。ドライバーの傍に座ったら色々と熱心に説明してくれるが大変訛りの強い英語で気の毒だったが殆ど判らない、丘の斜面をこの国の国花と云われるコーファイ Kowhai らしい花が一面に黄色く染めている、然しおなじ黄色でもエニシダはこの国の人々にルピナス同様外来種として嫌われているのだが我等には中々見分けがつかない。途中トイレ休憩を一度挟んで 2 時間でティアナウの DOC ビジターセンターに到着、建屋の前にはミルフォードトラックの開拓者クインティン・マッキノンの銅像が建っている。



コーファイカエニシダか



テアナウ湖を背景にクインティン・マッキノン像



ハイネワイ

元々このトラックはマオリの人々がジェイド(翡翠)を求めてミルフォードサウンドへ歩いた道で、1888年にマッキノンによって開拓されその後ミルフォードサウンドに初めて住み着いたヨーロッパ人探検家ドナルド・サザーランド、ジョン・マッケイ、アーネスト・ミッチェルらによってその価値が世界に広められていった。 此処で昼食のサーブをしてくれた一寸色黒の美人ウェイトレス Hinewai に「貴女はマオリですか？」と聞いたら「Yes」とにこやかに答えてくれた。 今は人口比で 15%のマオリ族だが古来この地を守り続けてきたという誇りのようなものを感じる。 昼食後 No.46 グループとガイド全員の記念撮影をして湖の岸沿いにバスで 20 分、栈橋のあるティアナウダウンズ (downs は停泊地) でバスとはお別れ、此処にはヘリポートや水上飛行機の栈橋もある。



No.46 グループ全員とガイドの記念写真

船は 2:00pm に出発してテアナウ湖の北端グレイドワーフを目指す。 船内で参加者全員がビジターカードに氏名住所をローマ字でサイン、降り出した雨が強くなってきたので下船前にレイン

ウェア、スパッツ、ザックカバーなど雨中歩行の準備を整えた。(続く)

【2020 年 4 月 28 日 山本 浩 リメイク版】